

第5回 情報交換会 【長岡市の日本語教育】
—大学・教育機関と地域社会との連携について考える—

日時：2026年3月1日（日）

会場：米百俵プレイス ミライエ長岡 ミライエステップ

形式：ハイブリッド（対面・オンライン）

プログラム：

13：00～13：05 開会の挨拶：長岡技術科学大学 副学長（国際戦略担当）宮下 幸雄氏

13：05～13：25 来賓挨拶：文部科学省総合教育政策局日本語教育課視学官 鴨志田 暁弘氏

13：25～13：55 登壇者によるご発表

① 敬和学園大学 人文学部 契約講師 木林 理恵氏

「地域連携におけるリソースの課題—学生・教員・現場の持続可能性を模索する」

② 新潟県立大学 国際地域学部 教授 宮崎 七湖氏

「これからの多文化共生社会を支える日本人学生の学び：国際共修科目の実践報告」

③ 新潟大学 グローバル推進機構 国際交流センター 准教授 廣川 智氏

新潟県国際交流協会 主事 井上 しおん氏

「外国につながる児童生徒のためのオンライン日本語教育支援モデル事例—新潟県国際交流協会との協働—」

④ 長岡工業高等専門学校 一般教育科（日本語教育） 助教 兵藤 桃香氏

「長岡高专留学生の地域交流活動」

⑤ 国際大学 言語教育研究センター 日本語プログラム 准教授 倉品 さやか氏

「日本語教育を通じた留学生と地域の交流—国際大学の事例紹介—」

⑥ 長岡技術科学大学 グローバル教育院 教授 リー・飯塚 尚子氏

「産官学連携による日本語教育長岡モデルの構築に向けて—外国人材の地域定着を目指して—」

16：40～16：45

閉会の挨拶：長岡技術科学大学 多文化共修日本語教育研究センター長 リー飯塚 尚子氏

16：45～17：10 交流タイム

ご報告：

申込者数：155名、参加者（実数）：対面34名、オンライン81名を得て、盛会のうちに終了いたしました。

大学からは、敬和学園大学、新潟県立大学、新潟大学、国際大学、長岡技術科学大学より、また交流協会からは新潟県国際交流協会よりご発表いただきました。地域社会と大学・教育機関との連携について議論が行われ、日本人大学生や留学生と地域との多文化共修の実践が報告されました。

高专からは、長岡工業高等専門学校よりご発表いただきました。未利用魚（みりょうぎょ）を活用し、留学生と日本人学生が地域おこしに取り組む先進的な事例が報告されました。本来食べられるにもかかわらず廃棄されてしまう未利用魚に着目し、「寺泊漁協」「地域おこし協力隊」「JICA（長岡デスク）」「乙吉町民」「市内飲食店」など多様な主体と連携することで、コラボメニューの開発や、里山の未利用資源を活用した畑づくり（収穫した野菜を活用）、子ども食堂での弁当提供など、学生と地域が協働した好事例が共有されました。

最後に、長岡技術科学大学（リー飯塚尚子氏）より、多文化共修のための「日本語教育長岡モデル」が紹介されました。長岡市では、長岡グローバル人材活躍推進協議会が中心となり、市内企業や大学・高専、商工会議所、金融機関と連携しながら、外国人材受け入れの環境整備を進めているとのこと。同大学は、日本語教育に関する知的・人的リソース（「長岡モデル 日本語コース（仮）」）を協議会に提供し、日本語授業のカリキュラム作成や教材検討を行っています。大学が市に働きかけた結果、令和 8 年度の長岡市予算案の骨子・重点施策に「長岡モデル 日本語コース（仮）」が盛り込まれることとなった好事例が共有されました。

遠方からは関東よりお越しいただきました。参加者の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

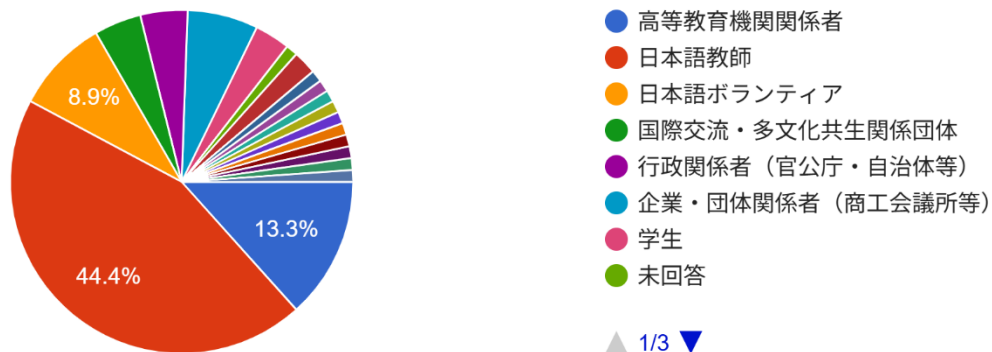
当日の様子：



参加者の属性：

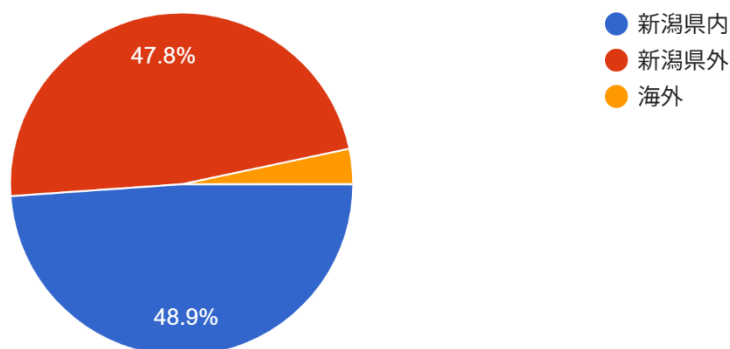
1. 該当するご所属にチェックを入れてください

90件の回答



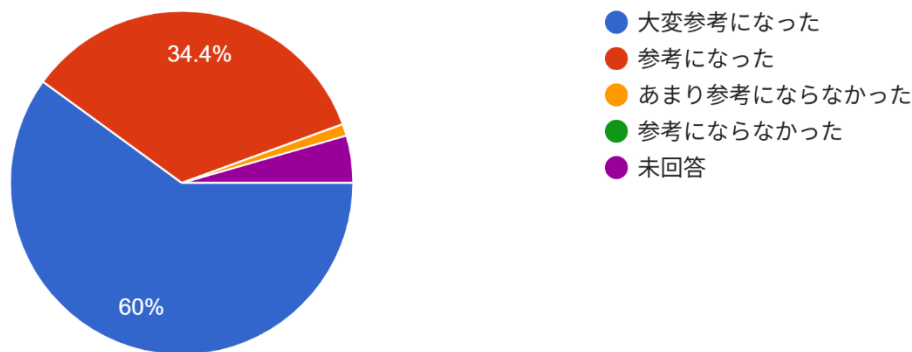
2. 本日はどちらからご参加ですか

90件の回答

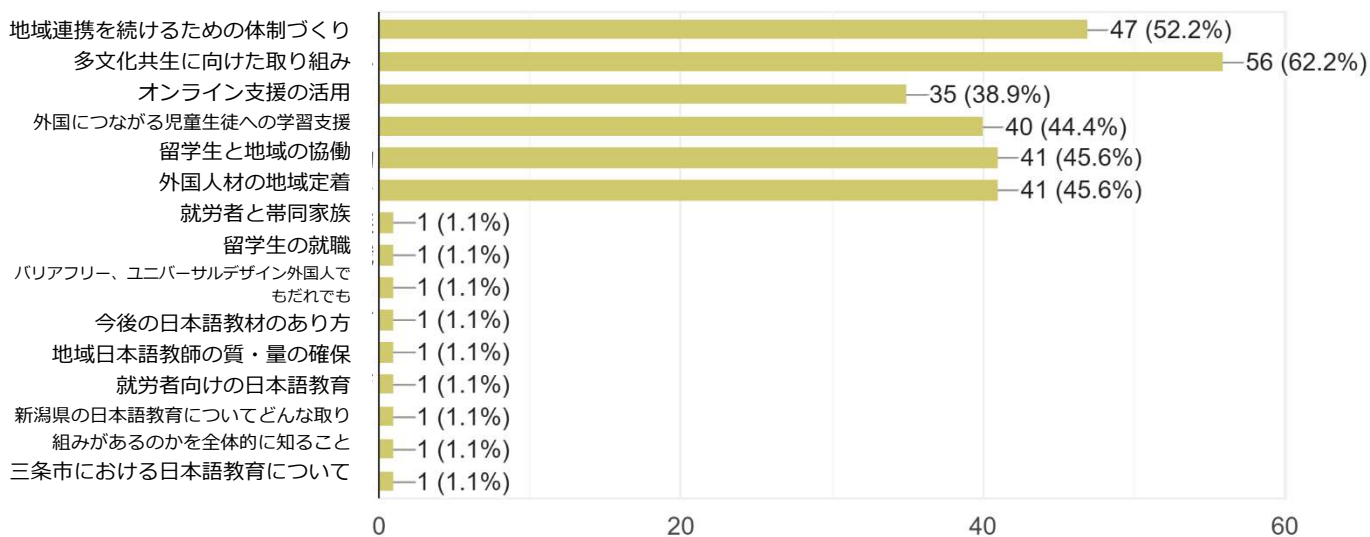


3. 情報交換会の内容はいかがでしたか

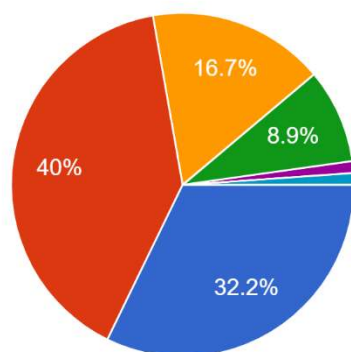
90件の回答



4. 本日の発表内容と関連して、現在ご自身が特に興味・関心を持っているテーマをお選びください（複数回答可）



5. 大学・教育機関と地域社会とのつながりについて、ご自身のお考えに一番近いものはどれですか
90件の回答



- 現在、何らかの形で関わっている
- 関心はあり、今後関わってみたい
- 必要性は感じているが、きっかけがない
- 自分の立場ではあまり関わりがない
- よくわからない／判断がつかない
- 考えではなく、状況ということであれば、別々の繋がりでそれぞれに関わっている（つながっていない）状態